

令和6年度 磐田市立豊田北部小学校 学校評価書

*各重点の評価(%)の平均80%以上をA評価、80%以下をB評価とする。

重点	目標・取組	評価指標	教師	子供	保護者	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
学年学級経営 学校経営	学校教育目標に向けた取組 ・「夢をもち たくましく生きる子」の育成 ・北部っ子プライド「挨拶・挑戦・助け合い・聴いて・考え・伝え合い」	将来の夢や目標をもって、生活することができているか。	93%	87%	65%	B	○運動会・音楽祭・各学年行事において、子供たちは自分のめあてに向かって意欲的に取り組んだ。また、各課長からステージごと、具体的な目標となる姿を伝えるとともに、前ステージの結果を数値化し子供たちに伝えた。これらの取組により、めあてに対する達成感を味わったことが、高い評価につながっていると思われる。一方で、教師や保護者の評価は依然として低い。教師や保護者が願う子供の姿と、子供の自身の目指す挑戦する姿との間にずれを今後も改善していきたい。 ※引き続き、ステージや行事ごと、めあてをもって活動に取り組むことを啓発していく。そして、行事とキャリアパスポートをリンクさせていながら、成長を価値付けていく。また、保護者にも子供たちの表れや成長を、学年日よりHP等で伝えていくことで、教師や保護者の目指す子供の姿と、子供自身が目指す姿を共有できるようにしていきたい。	○子どもの姿に対する大人の評価は、いつの時代も、子ども自身の評価より低いかと思う。学校だけでなく、家庭の中でも「たくましく生きる」ために、何らかの役割があるといい。○教師の評価が、全体的に高いのはなぜか。分析が必要。 ○失敗しても、チャレンジさせてほしい。 ○小学生の年代で、将来の夢や目標をもつことは、考える力が必要だと考えます。 ○家庭でも、学校でも、好きなことや興味・興味があることを見出し、観たり体験したりする機会をより多くもつことが大切かと思えます。 ○大人が失敗を恐れなくて挑戦できている姿を見せられれば、子ども達の意識が変わると思う。 ○どんな事でも良いので、子ども達に何かに挑戦できる授業があれば、そういう機会も増える。
		よりよい自分になるために、難しいこと・苦手なことでも失敗を恐れなくて挑戦しているか。	70%	83%	64%			
授業づくり	学びを深めていく子の育成 ・学び合う場をとおりし、思いや考えを深め、力を培っていく。こんな場を繰り返し、積み重ねることで学びを深め、真の力を付け続けていく子を目指す。	相手を見て、最後まで話を聴くことができているか。	89%	92%	A	○本年度の校内研修では、「学びをつなぐ つながりで学ぶ 子供の育成」を目指して、「つながりを意識した単元構想」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の2つの視点で授業改善を行ってきた。また、総合的な学習の時間では、SDGsをテーマとして、ペア学年で学習を進めて行った。校内研修と総合的な学習の時間と関連させながら、子供たちの学びを深めていけるようにした。その結果、学習意欲の高まりや必要感のある双方向的な学びの深まることができ、本結果のような高い評価につながったと考えられる。 ※来年度も、研修と本校独自の取組であるペア学年による総合的な学習の時間を関連させながら、子供たちの学びを深めていきたい。また、自己調整力をテーマとして、子供たちが自分の学びを振り返り、よりよい学習を自ら設定できるような場も設定していけたらと考えている。来年度も、市内唯一のAIを活用した児童自主学習アプリが導入されることが決定しているので、学びの個別最適化に活用していきたいと思う。	○研修の中で、「教材研究」から「内容研究」へ高まっていく中で、「何を」から「なぜ、それを学ぶか」に深まっていくとよい。 ○家でなければできない家庭学習もある。反復学習は、家庭学習で行うことも大切。また、宿題は出しすぎて良くない。家庭で、自分が興味のあることができる時間も確保してあげることが大切。 ○集団生活の中で相手の話を聞き、自分の意見を言えるバランスをとる事は大人でも難しいと思うが、先輩後輩との関係性の中では、とても身に付く。すでに行っていると思うが、小中一体校の特徴を生かして、1～9年の中でも4・9年、5・8年、6・7年のみの交流を増やしてあげても良いのではないかと思う。	
		自分の考えを伝え合うことができているか。	85%	83%				
		大事な言葉を覚えて、自分でまとめを書き上げることができているか。	93%	83%				
仲間づくり	互いを大切にしていける子の育成 ・違いを認め、ありのままの自他を受け入れ、礼をつくす。共に課題に向き合い、切磋琢磨し成長し合うことで互いを大切に続ける子を目指す。	朝、誰にでも元気な声であいさつをして、返すことができているか。	78%	82%	A	○あいさつについては、昨年度の反省も踏まえ、年間を通して意識の高揚を図った。ステージのめあての中に入れ、年間を通して計画的に子供の意識を高められるようにした。小中合同委員会活動やPTA、学府の挨拶運動といった活動と連携し、挨拶を推進する活動を行った。ステージごとあいさつの意義を分かりやすく子供たちに伝えたり、良い表れの価値付けたりすることで、朝の自主的なあいさつボランティア活動など子供たちのあいさつに対する意識の向上が見られ、昨年度より良い数値結果となった。○助け合うことや協力することについては、各担任・保護者・地域の方々の指導もあり着実に育まれていた。中学生の小学生に対しての様々な取組やサポートも、大きな影響を与えていると考えられる。 ※あいさつについては、来年度もどんなあいさつができればいいか具体的なイメージを共有する場を設け、適切に指導していきたい。また、ステージごとに良い表れを子供たちに価値付けをしたり、学年日より等で保護者に伝えていったりすることでさらなるあいさつへの意識の向上を図っていきたい。ただ、地域の方々へのあいさつに関しては、十分できているとは言えない現状がある。そこについても、今後改善策を考えていきたいと思う。	○すでに実践していることと思いますが、友達同士で頭を下げたり、先生に会釈をするのも、その場からさわい良いあいさつだと思う。 ○朝、教室に入る時に戸口で、みんなに「おはよう。」と元気に言える子がいたら、それは良いモデルケースになるのではないかと。	
		相手を思いやり、助け合って生活することができているか。	96%	92%				95%
家庭・地域・一体校との連携	地域とつながる学校 ・地域のもの、人と進んで関わる態度の育成 ・学校と家庭との連携 小中がつながる学校 ・中学校とのつながり	地域の人たちと、学校や地域で関わっているか。	100%	81%	89%	A	○本年度は感染症対策が大きく緩和され、多くの活動が制限なく行えるようになった。その結果小中との交流や、豊田中との交流活動については、活発に行われるようになった。幼稚園や保育園との交流も行うことができた。地域との交流についても、各教科や総合的な学習の時間などで積極的に行うことができた。 ○学校からは、学校日より・学年日より・HP等で、積極的に情報を発信したり、端末を活用したアンケートで保護者の声を聞いたり情報の共有に努めた。 ○豊田中との交流は、授業・イベント・スタディサポート等、多くの交流活動が行われた。また、本年度から始まった小中合同委員会や音楽祭での合同練習や全校合唱等の取組が、数値の大幅な向上につながったと考えられる。 ※地域との交流については、コミュニティスクールディレクターと協力し、学習の効果を上げる一環として、今後も地域の方を講師に招いたり、地域の施設に見学したりする機会を設けたいと考えている。 ※小中交流については、現在行っている活動を継続していく。さらに、来年度は小中合同委員会活動をさらに充実させていったり、新たな交流活動を子供たち主体で考えていくことで、さらなる交流の発展へとつなげていきたい。	○朝読書の時間があるかどうか分かりませんが、もしあれば中学生が小学生の教室で読み聞かせをすることによって、両方に意味がある交流になると思う。 ○祭典や地域、消防などのイベントで子ども達を見かけることが多いので良いと思う。今後の地域を担っていく子ども達なので、地域のイベントに参加する姿を見られるのは嬉しいことである。 ○せっかくなの小中一体校であるので、生徒・児童同士、先生同士もどんどん交流を増やしても良いと思う。自分にとっては、そのような交流が大事な気がする。
		学校で目指そうとする子供の姿や教育方針について保護者に伝えているか。	96%		85%			
		豊田中の生徒と、交流している。(子供)	74%	76%				

学校関係者評価を受けてのまとめ

学校評議員の方の助言から、家庭や地域からの視点から子どもたちの実態や教育のあるべき今後の姿を知ることができ、大変参考になった。小中一体校という特色を生かしつつ、本年度職員全体で考えていった教育課程をもとに、今回の助言を生かしながら来年度の学校運営に生かしていきたい。